

地盤工学会がコンテスト



地盤工学会関東支部(龍岡文夫支部長)は、支部創立10周年行事として、「第9回ソイルストラクチャーコンテスト」を日本大学船橋校舎(船橋市習志野台)で先月29日開いた(写真)。学生6チームと社会人4チームの参加チームはそれぞれ、創意工夫して液状化対策を施した模型地盤を

液状化対策へ創意工夫

10チーム参加 沈下・傾きなど効果競う



重村責任者

3種類までの使用が許された。また、模型地

加チームはそれぞれ、創意工夫して液状化対策を施した模型地盤を

製作。加振装置により生じる構造物の沈下量や傾き、設計・施工能力、プレゼンテーション能力を競い合うとともに、親睦を深めた。



優勝した東京電機大学チーム

も社会に役立つ様なテーマを基に、参加者が楽しめるコンテストを続けていきたいと述べた。

重村責任者は、試料の手触りや研究成果などを基に試行錯誤を重ねて模型の作成方針を決定。模型材料となる試料は珪砂で、液状化対策に用いる器具・材料は、指定されたもののうち

参加者は、試料の手触りや研究成果などを基に試行錯誤を重ねて模型の作成方針を決定。模型材料となる試料は珪砂で、液状化対策に用いる器具・材料は、指定されたもののうち

チームが最優秀液状化対策工法賞を受賞。成績内容をみると、加振段階が最大の7を記録したほかに、高い方の沈下量が2・19mm、低い方の沈下量が0・85mm(不同沈下量：1・34mm)であったことや、敷設した構造物の傾きの程度が他に比べて優れていたことが、評価されている。

は断面が20cm×40cmの専用土槽に厚さ20cm規模のものが作成された。コンテストでは、東京電機大学

日刊建設工業新聞
2014.12.2(火)掲載



地盤工学会 関東支部 ソイルストラクチャーコンテスト

テトラ混合▽日本大学▽東京電機大学▽海の男▽三信建設工業▽横浜国立大学▽横浜国立大学B▽関東学院大学H▽関東学院大学K▽水尾の10チームが参加した。参加者は、主催者が用意した器具と材料を使い、2時間半の制限時間内に液状化が

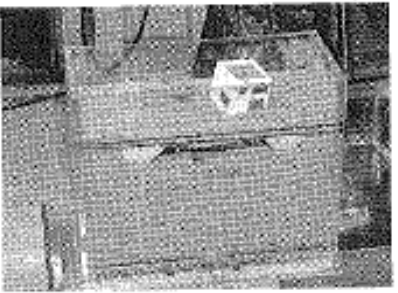
く抑えられる地盤の液状化防止技術を競った。審査の結果、優秀液状化対策工法賞は東京電機大学チームが受賞。同チームは社会人が選ぶ液状化対策工法アイデア賞にも選ばれた。今回は、▽応用地質・不動産液状化対策工法賞に選ばれた

た日大理工学部土木工学科の重村智准教授は「各チームとも、新たな発想と今までの知識が集結した魅力的な地盤コンテストだった」と総括した。

優勝した東京電機大学チーム

2014.12.4(木) 建設通信新聞

東京電機大が優勝
地盤工学会関東支部の液状化対策模型地盤コンテスト
地盤工学会関東支部(龍岡文夫支部長)は11月29日、第9回ソイルストラクチャーコンテストを日本大学船橋校舎(船橋市)で開いた。土木工学系学科を持つ4大学から6チーム、社会人による4チームの計10チームが、それぞれ液状化対策した模型地盤を作成。工法のアイデアや、振動を加えた後の沈下量などの対策効果を競い、写真真、東京電機大学チームが総合優勝した。



コンテストは、同支部の創立10周年記念行事として開催。大学は、東京電機大のほか、関東学院大、日大、横浜国立大が参加した。